

令和7年度 県立石岡第一高等学校自己評価表(全日制)

<p>目指す学校像</p>	<p>(1) 創立 115 年の歴史と伝統を受け継ぎ、学科の特色を生かし、地域における教育の中核として「魅力ある学校」「信頼される学校」となる。 (2) 生徒一人一人が個性を伸ばし、将来の夢を実現するための知識・技能を身に付け、自信と誇りを持てる学校となる。 (3) あらゆる教育活動の場面で、生徒が主体的に行動し、活気に満ちた学校を目指す。</p>	
<p>三つの方針</p>		<p>具体的目標</p>
<p>三つの方針 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>(1) 進学に向けた組織的・計画的な指導を充実させ、生徒の学習意欲とキャリアデザイン力を育成する。 (2) 授業の内容や方法を工夫・改善するとともに、生徒の主体的な学習習慣の定着と確実な学力の向上を図る。 (3) 生徒の規範意識を高める指導と心の教育を充実させ、自己指導力や互いを尊重する態度を育成し、人間性の向上を図る。</p>
	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>(1) 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程の編成・実施 (2) 生徒の興味関心を最大限引き出し、生徒が主体的に活動する授業の実践 (3) 「総合的な探究の時間」を充実させ、大学等との連携や教科間連携をした探究型の学習の展開 (4) 豊富な地域人材を活用したキャリア教育の展開 (5) 進学から就職まで多様な進路に柔軟に対応する指導の充実 (6) 学校行事や課外活動、ボランティア活動等のさまざまな体験を通じて、主体性と協働性を養う学習機会の充実</p>
	<p>「入学者受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>(1) 学習意欲があり、基本的な生活習慣や規範意識が身につけている生徒 (2) 他人の考えを尊重し、人の意見を素直に聞くことができる生徒 (3) 生徒会活動や部活動、地域活動等に対して、積極的のチャレンジできる生徒 (4) 自分の考えを様々な場面で発表し、表現する意欲を持っている生徒 (5) 身につけた専門性を生かし、農業や産業の担い手として、地域を支えるリーダーとして社会に貢献しようとする気概を持った生徒</p>

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>学習指導の充実と部活動の振興を目指して教育活動を実践し、生徒一人ひとりを大切にする指導に努めた。</p> <p>令和7年度入試では、国公立大に現役で31名（2年連続30名以上）が合格した。県内の国公立大学では筑波2名、茨城大6名、県立医療大1名が現役で合格。また、東京理科大、立教大、明治大、青山学院大、法政大などの私立大学にも合格した。来年度も国公立大学30名以上の合格を目指す。就職では、公務員9名、地元企業等に45名が合格し、本年度も学校推薦による内定率100%を達成した。</p> <p>部活動においては、ウェイトリフティング部と弓道部が全国大会出場、バドミントン部と陸上部が関東大会出場を果たした。また、文化部においても県総合文化祭をはじめ多くの催しへ参加した。本年度も、多くの部活動が大会上位入賞の実力があり、本県の代表となる期待が持てる。</p> <p>農業学科においては、専門教育の充実に努めた。その他、地域貢献活動も積極的に行っている。</p> <p>今後も、生徒一人ひとりが人間性と学力を向上させ、充実した高校生活を送り、進路希望を実現できるよう、さらに指導の充実を図ることが重要である。</p>	全	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業時間数と授業時間の確保に努める。 (2) 授業方法を改善し、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 (3) 自学自習・家庭学習習慣の定着を図る。 (4) 「生活・学習プランニング力」の向上を図る。 (5) 総合的な探究の時間の展開を研究し、改善する。特別支援教育を推進する。 	B
	学	進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> (1) 組織的・計画的指導を推進し、希望する進路の実現を目指す。 (2) 個別面談を充実させ、進路希望を明確にする。 (3) 課外授業等の計画的実施と主体的な学習活動を促進する。 (4) 地域活動への参加を促し、社会的実践力を養成する。 (5) キャリアデザイン力を育成し、生徒の意欲・能力を高める。 	A
	科	基本的生活習慣の確立と規範意識の定着	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒に社会性を意識させ、挨拶や身だしなみの指導に努める。 (2) いじめや体罰のない「安心・安全な学校づくり」に努める。 (3) 教職員間の情報共有を図り、家庭や関係機関との協力・連携に努める。 	B
	科	特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の企画・運営力を高め、主体的な活動を促進する。 (2) 学校行事での生徒の積極的な取組を促進する。 (3) 部活動の充実を図り、生徒の向上心や達成感を促進する。 	A
	科	専門教育の充実と地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> (1) 幅広いニーズに応えられる魅力ある学習内容を取り入れる。 (2) 農業クラブやプロジェクト学習を充実させ、大会入賞者や上級資格合格者を増やす。 (3) 開放講座や収穫祭等を通して、地域と連携した専門教育を推進する。 	A
	科	外部への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> (1) HPやSNS等のメディアを活用し、保護者や地域に積極的に情報発信する。 (2) 学校説明会や中学校訪問の実施により、中学生対象の広報活動を推進する。 (3) 地域に開かれた学校づくりを推進する。 	B
	科	教員の働き方改革の推進と服務規律の遵守	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育計画や組織運営を見直し、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を推進する。 (2) 授業準備、研修、生徒指導に十分な時間を確保し、教師が生活と教職を充実させることで人間性を高め、生徒への効果的な教育活動につなげる環境を整備する。 (3) ICTの効果的な活用により、職員会議、成績処理、教材準備の効率化を図る。 (4) 教員はコンプライアンス意識の向上に努め、服務規律の遵守を徹底する。 	B

		授業改善の推進	(1) 生徒の学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 (2) 教師一人一人が、生徒による授業評価（「中間評価」等）をもとに日々適切に授業改善をする。 (3) 学校の目標として、「生徒による授業評価（「最終評価」）」の各項目における「学校全体の評価平均」を「3.0」以上とする。		B
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への課題
国語	基礎的な言語能力の定着を図り、言語感覚を磨く。	HRや授業時間を利用して、漢字・語句・一般常識等の小テストを実施する。		A	B ・主体的で対話的な深い学びのために、単元設定や教材の活用についての工夫を図る。 ・言語活動の充実のために、学校図書館やICTを活用した授業についての情報共有を図るとともに、研究を重ねる。
		積極的に辞書や文法書・副教材を活用する授業を行う。		A	
		授業において小論文練習の時間を意図的に作り、小論文模試を実施して、自己表現力を育成する。		A	
		スピーチやプレゼンテーション、意見文作成等の言語活動を授業に取り入れるとともに、生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。		B	
	思考力を伸ばし、想像力を養い、心情を豊かにする。	表現力を養うために、主体的で対話的な学びを取り入れた授業を積極的に行う。		B	
	情報化・国際化時代に対応できる力を培う。	副教材や視聴覚教材等を活用して、古典の世界に視覚的・聴覚的に親しませる。		A	
		学校図書館の資料やインターネットを通して得た情報を随時取り入れて授業を展開する。		B	
	進路希望を実現するための国語力を涵養する。	学科別・コース別に教材内容を吟味し、指導方法を工夫する。		A	
3年間を見通して、順次難度を高めた問題演習を行い、実力養成に努める。 補習・課外・個別指導等で、進路希望に沿って丁寧に対応する。			A		
地歴公民	歴史的・地理的事象に関心を持ち、国際社会の変化に対応できる知識・考察力を身に付ける。	歴史的事象を複眼的に考察し、因果関係を考えさせる。		A	B ・歴史的・地理的事象ならびに現代社会における諸問題について、さらに深く掘り下げて学び、かつ、協働によりその言語化を進める必要がある。 ・すべての学年について、主権者として・主権者になる者として多面的・多角的な学びを深めていく必要がある。
		地図や資料を活用し、地理的特徴を把握させる。		A	
		現代の国際社会における政治経済の仕組みを理解させる。		A	
	多様な方法を駆使し、現代社会の諸問題を考察し、主権者として主体的に、よりよい生き方を追求する。言語活動の充実を図り、表現する能力を身に付ける。	ICTを活用して自ら調べ、多面的・多角的に考察させる。		A	
		社会参加の方法を考えさせ、青年の生き方を追求させる。		B	
		言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を問う問題を出题する。 生徒の学びとともに教師自身の学びを転換し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。		A	
	進路を実現するための実力を養成する。	共通テストを意識して、授業・課外等を充実させ、進路が実現できるように指導する。		A	
		生徒による授業評価をもとに日々授業改善し、進路実現のための実力を養成する。		A	

数 学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、表現・処理する技能を身に付ける。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を養う。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。	週末課題や長期休業中の課題、生徒への声掛けを通して家庭学習の時間が増えるよう促す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・週末課題を提出しない生徒への声かけが、今後の課題。 ・授業進度と生徒の発表を両立することが今後の課題。 ・小テスト等を通して基礎学力向上を図ることが出来た。 ・大学入試に対応できる教材選びと指導の工夫を継続したい。 ・スタディサプリの有効的な活用方法の研究をしていきたい。
		授業での発表を通して自ら考え、根拠を持って自分の考えを表現する経験を増やす。	B		
		模擬試験の分析や、教科内での情報交換、教材研究を行い、指導に活かす。	B		
		平日の課外や、長期休業中の課外、副教材の活用、模擬試験への対策を通して、大学入試に対応できる学力を伸ばす。	A		
		主体的・対話的な学習活動を通して、論理的に考察し、判断することができる能力を伸ばす。また、生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。	B		
		定期的小テストを行い、基礎学力の向上をはかる。	A		
授業準備やチャイム着席を徹底し、望ましい態度を育む。	A				
理 科	基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	補助教材に計画的に取り組みせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目で生徒実験や演示実験を行い、生徒の深い理解を促すことができた。 ・グループ活動や発表の機会を設けて生徒が主体となる授業を展開した。
		定期的小テストを行う。	B		
	生徒による授業評価をもとに日々授業改善に努める。	A			
	科学的に探究する力を養う。	実験や観察等を取り入れた授業を展開する。	B		
科学的思考力・判断力・表現力等を身に付ける。	日常生活と関連した課題を用いて、ペアワークやグループ活動等、言語活動の充実に焦点を当てた活動を行う。	B			
保 健 体 育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	【保健】 <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する正しい知識や情報を選択できるよう調べ学習の時間を設ける。 ・個人及び社会生活における振り返りや計画を図る活動を行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も自ら健康を維持管理できるよう個人生活を振り返ったり、情報収集したりする機会を設ける。 ・授業形態は主に選択授業としているが、ダンスについても選択を検討したい。
		【体育】 <ul style="list-style-type: none"> ・各運動の特性や魅力が味わえる授業を展開する。 ・生徒が主体的に運動に関われるよう自己決定の場として種目の選択制を取り入れる。 	B		
芸 術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	様々な活動を数多く体験することにとどまらず、生徒一人一人が内発的な動機に基づきながら、表現活動や鑑賞活動に主体的に関わることができるようにする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人がより自ら課題を見つけ、探究的に創作や鑑賞に取り組む姿勢を育むことを目標としたい。さらに、学習の成果を共有・発表する機会の充実や、多様な文化・芸術にふれる機会の拡充を図り、表現力と感性の一層の向上につなげていきたい。
		創作活動の中で個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、新たな価値を見いださせたりなどし、創造的な能力を高める。	B		
		我が国及び諸外国の芸術文化に対する理解を深め、尊重する態度を育成する。	B		

英語	語彙や文法など、基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	単語テストや例文の暗唱テストなどの小テストを定期的に行い、基礎学力の向上を図る。	A	B	・授業における ALT の活用事例についてさらなる研究をする。ゲーム等を通じた異文化理解だけでなく、教科書等を使用した授業を共に行えるような活動を増やすことが今後の課題である。
		予習・復習の習慣の定着のため、ノートを取り方の指導・定期的な点検する。	B		
		英文法の効果的な理解を目指し、体系的にまとめた教材等を用いながら十分な問題演習を行い、進路実現に対応できる学力を育成する。	B		
	聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを伝える能力を養う。	英語検定準2級～2級の取得を推奨し、英作文やリスニング指導の充実を図る。	A		
		教科書だけでなく共通テスト等に対応した様々な教材を使用し、速読力や精読力の伴った読解力の育成に努める。	B		
		3年間を見通したリスニング教材を継続的に使用し、ある程度まとまった英文を聞く力を伸ばす指導をする。	B		
		授業中にクラスルームイングリッシュを積極的に使い、インタラクティブな授業展開をする。	C		
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	スピーチやエッセイライティングの機会を継続して取り入れ、能動的に英語を使用する場面を増やす。	C			
	ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる。	B			
	全ての学年において ALT とのティームティーチングの授業を積極的に取り入れることで、自らコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。	B			
家庭	家庭や地域における生活の充実・向上を図る態度を育てる。	現代社会の現状や課題を理解し、調べ学習や各々の考え方を共有するうえで ICT を効果的に活用し、生活を営む確かな考え方の定着や多様な考え方を受け入れる態度の育成に努める。	B	B	・授業の内容をより自分事として捉え、自分の生活の課題を発見できるような授業を心がける。 ・実験、実習を通して、実際の生活に活用できる知識、技術を身につけられるようにする
	基礎的な知識や技術を身につける。	体験学習および実験・実習を通し、基礎的な知識や技術と科学的に探究する方法を身に付け、自立に向けて家庭生活で応用できる力を育成する。	B		
	自己実現を志向して主体的に生活を創る能力を養う。	日々の生活の中での課題を見つけ、解決する能力を育成するとともに、家庭及び地域社会の一員としての役割を果たすための資質を育てる。	B		
情報	問題発見・解決能力の育成 情報社会への主体的参画 情報に関する科学的な見方。考え方の育成	情報技術・情報通信ネットワークなどを活用し、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得する。	B	B	・基礎的な知識・技能の習得に向け、教材の改善、授業法の工夫に向け、自己研修を図る。また3年生の共通テスト対策についても改善を進める。
		情報モラルやセキュリティを意識した適切な判断ができるようにする。	B		
		教科の研修等に参加し、他校の事例を学ぶ	A		
教務	学習評価の更なる質の向上	各教科で評価の具体的な方法（小テスト、振り返りシートなど）を共有する。	A	B	・感染症の後遺症で考査を欠席する際の、手続き方法を検討する。 ・急な年休があった際、十分な準備ができないまま授業を行わなければならないケースがあったため、予め填補の順
	ICT活用の日常化と高度化	各教科で評価の具体的な方法（小テスト、振り返りシートなど）を共有する。	B		
		教員相互の授業参観への参加を促し、授業方法についてのノウハウを共有する。 利用しやすい ICT ツールを紹介し、教員が試しやすい環境を作る。	B		
	言語活動の質の向上と全教科への展開	各教科の特性に応じた質の高い言語活動の例（説明、発表、レポート作成など）を組織的に計画・実施し、授業見学等を通じてその成果を共有する。	A		
教員間の連携強化と研修の充実	教科会や学年会での情報交換・意見交換の機会を増やす。	B			

	総合的な探究の時間の質の向上	探究活動の進捗状況を共有し、教員間でアドバイスをを行う体制を構築する。	B	<p>番をきめる等、対応方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査間の授業日数に偏りがあるため、考査の実施回数、時期、および学校行事の実施時期の再検討を行う。 ・ レジャー目的でのラケーション利用が目立つため、取得のための条件について検討を行う。 ・ 評価方法（特に主体的に学習に取り組む態度の評価について）について、教員間・教科間の共通理解を図る。
		探究の成果発表を実施し、生徒の意欲を高める。	B	
	特別支援教育における個別のニーズへの対応の強化	特別支援コーディネーターを中心に関係機関との連携を強化する。	B	
		個別の教育支援計画に関する情報共有の機会を設け、教員間の連携を促進する。	B	
	授業時間数と授業時間の確保に努める。	出張や急な年休の際の授業交換を徹底し、授業時間を確保する。	A	
	業務の効率化を推進する。	デジタル採点、Google Classroom やスプレッドシート等の利用拡大により業務の効率化を図る。	A	
	中学校や地域に向けて情報を発信する。	各学年・分掌と連携し、学校ホームページの即時的な情報の更新と内容の充実に努める。	A	
		外部の進路相談会に積極的に参加し、広報に努める。	A	
		学校説明会の実施方法、内容について見直しを行う。	B	
	適切な教育課程を編成し、学力の向上を図る。	教育課程の更なる見直しを行い、教科間、学科間のバランスを図るとともに、生徒により最適な学びを提供する。	A	
	校内ネットワークの安定的な運用に努める。	ネットワークの状況を監視しながら、不具合への迅速な対応に努める。	A	
	図書館利用の促進を図る。	館内蔵書を充実させる。	A	
		「図書館だより」などを通して、生徒の読書に対する関心を高める。	A	
		館内の装飾を工夫し、明るく利用しやすい雰囲気作りを目指す。	A	
		館内でのマナーの指導を徹底する。	B	
委員会活動の活性化を図る。	図書委員全員に係を振り分け、役割分担を明確にして自覚を促す。	A		
	校内・校外での図書委員対象の研修会に積極的に参加させる。	A		
生徒指導	生徒指導方針の共通理解を図り、生徒指導基準を明確化する。	生徒指導部から情報を発信し、生徒指導上の現状と問題点を迅速に周知させる。	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の問題行動が発生した時に、教職員間の情報共有を円滑に行う必要がある。 ・ 生徒の問題行動を未然に防止する方策を考えていく必要がある。 ・ 容姿指導の方針や進め方について共通理解を図る必要がある。
	いじめ防止、規範意識を醸成する。対話指導の推進を図る。基本的生活習慣を確立する。校則の見直しを図る。	全教職員が生徒指導に取り組む体制を構築するとともに、生徒への連絡・周知を徹底させ、統一かつ効果的な支援を実現する。	B	
		学習活動、特別活動、学級活動など、学校生活全体において、互いの個性や多様性を認め合い、協働意識や規範意識を向上させることで問題行動の未然防止に努める。	B	
		身だしなみや化粧・アクセサリ等の使用など、容姿指導を重点目標とする。	C	
		基本的生活習慣の確立のため、家庭の協力も得て継続して指導する。	A	
	教職員、生徒、保護者の意見なども取り入れながら定期的に校則について見直しを図る。	A		

進路指導	進路意識の高揚を図り、質の高い進路実現を目指す。	大学模擬授業や職業ガイダンスなどの機会をとおして、様々な分野への関心を高める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・各担任が進路指導の当事者として活動できるよう、日常的・重層的な支援をする必要がある。 各生徒が進路決定に主体的に取り組めるよう、日常の生徒指導と併せて一層支援する必要がある。
		進路情報交換会、学力検討会などを通して、各学年間の進路情報の共有を図る。	B		
	生徒の実態把握と学力向上を図る。	外部模擬試験を実施し、受験結果をファイナシステム等で分析提供し、学力向上及び進路指導に生かす。	B		
		多様化している生徒の進路に対応するため学年との連携を密にする。	C		
	適切な進路情報の提供を行う。	進路情報を多種多様な資料から精選し、各学年へ積極的に提供する。	B		
	進路指導室内の進路資料の充実を図り、生徒・職員共に利用しやすい環境にする。	A			
特別活動	集団や社会の形成者としての自主的・自立的な活動を支援する。	生徒同士が協力して生徒会や常置委員会を運営し、学校生活の充実と向上のために諸問題の解決する力を身に着けられるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、委員会活動、部活動、行事活動等において、生徒同士が主体的に協力しながら、学校生活の充実に向けて課題を発見し解決していく力をさらに育成する。 ホームルーム活動や地域との交流を通じて、多様な価値観を理解し、人間関係形成や社会参画に必要な資質・能力を伸ばす。
		ホームルームにする話し合い・合意形成・役割分担を通して、人間としての在り方生き方についての理解を深められるようにする。	A		
		クラスマッチなどの学校行事を通して、所属意識や連帯感を養う。	A		
	「開かれた学校づくり」を目指す。	「収穫祭」を通して地域との交流を図る。	A		
		生徒会の広報活動やボランティア活動などを通して情報発信を行う。	B		
	部活動のさらなる活発化を図る。	各部活動をPRし部員数の増加を図る。（部活動紹介・壮行会等・活動実績横断幕）	A		
		各部で、学校内・学校周辺の清掃活動等を定期的に行う。	A		
	学校行事を通して、社会的・職業的自立に向けての資質・能力を身に付けさせる。	学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せるように、学校行事や家庭及び地域における学習活動を工夫する。	B		
活動を記録し蓄積することにより、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。		B			
キャリアパスポートを活用して様々な学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成を図る。	生徒の成長を促す対話的な支援により、自らの学習状況やキャリア形成を見通した自己評価を適切に行わせる。	B			
保健	健康管理の意識を向上させる。	定期健康診断の意義を生徒に理解させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の実施事項を次年度にも正確に引き継げるよう、的確な情報伝達・引き継ぎを徹底する。 詳細な記録を残す。
		毎月1回保健だより等で最新の健康情報を提供し、生徒の自己管理能力を育成する。	B		
	防災に関する知識を習得させる。	防災避難訓練を実施し、災害時に適切な行動を選択できる能力を育成する。	B		
	教育相談体制を充実させる。	スクールカウンセラーの活用を強化し、専門的な立場からの助言をもらい生徒ひとりひとりの学校生活を支援する。	B		
	生活環境を整備する。	生活環境の整備に努め、より快適な生活ができるようにする。	B		
ストーブの安全管理と適切な使用に努める。		B			

渉 外	保護者の負担軽減及び教職員の働き方を意識した P T A 活動の見直しや、業務の効率的かつ合理的運営に努める。	P T A 本部役員と連携しながら、P T A 活動の見直し・運営の効率化を継続的に進める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者及び教職員の負担軽減を意識した P T A 組織、活動の見直し等を次年度以降も継続的に進める。 P T A 研修視察については、参加希望者が少ない現状を踏まえて、代替行事（「教養講座」、「交流会」）などへの変更を検討する。
		P T A 行事における出欠確認などは、Google forms など ICT 技術を積極的に取り入れる。	B		
		P T A 総会の書面審議（電子表決）の導入に可否について検討を進める。	B		
	保護者と教職員が協力して、生徒の健全な発達を支える教育環境の充実に努める。	P T A 運営会議、学年委員会での保護者からの質問、意見や要望等にしっかりと耳を傾け、生徒の学校生活がより充実したものになるように関係分掌と連携して、改善策を模索する。	B		
		予算が逼迫している生徒会活動について、P T A 予算からの活動補助費の支出を検討する	B		
		高P連の行事に積極的に参加し、先進事例を学び、本校の活動に活かす。	B		
事 務	茨城県予算の適正な執行を図る。	適正な事務処理を行うことは勿論コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行を心がける。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き適正な予算執行及び施設設備の管理を行うとともに、業務の見直しを積極的に行い、より効率的な業務の遂行を進める。
	施設設備の適正な管理を実施する。	事務職員と技術職員及び農場職員が連携を図り、施設等の修理箇所への対応を早期に実施する。また、学校施設設備による事故が発生しないよう、職員全員で校内巡視等を実施していく。	B		
	事務室の業務効率化を図る。	日々の業務の課題や問題点を洗い出し、より効率的に進める方法を検討し時間的なコスト削減を推進していく。	B		
農 業	学力の向上を図る。	教材の工夫や ICT の活用により授業内容へ興味を持たせ、農業学習への意欲を高める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 農業学習への興味・関心、学習意欲を高めるために教材等の工夫に努める。 プロジェクト発表・意見発表に向けて随時教員が支援できる体制を整える。 講演会や校外学習、インターンシップを活用し、キャリア教育の推進を図る。 引き続き老朽化した設備や機械等を適宜更新・修繕し安全管理を図る。 研修内容を具体的な目標達成に結びつくよう計画する。また研修後の実習への反映度を教員間で共有・検証し指導
		実験実習の効果的なフィードバックを授業で行い、学習内容の定着を図る。	B		
		授業や実習にグループワークやレポート等を積極的に取り入れ、コミュニケーション力・問題解決力・表現力の育成を図る。	A A		
	農業に関する興味・関心を高め、農業の意義や役割を理解させると同時に、専門的な知識と技術の習得を推進する。	様々な場面で農業と環境の関わりを意識させ、「食」、「農」、「命」の大切さを理解させ命を育む学習を展開する。	B		
		資格取得を推進する。（各種技能検定・講習会の受講等）	B		
		社会人講師等を積極的に活用し、技術の向上を図る。	B		
		整理整頓および安全確保を徹底する。（実習時の実習服・ヘルメット着用の徹底）	B		
	農業クラブ連盟の活動を推進する。	上級学校や農業関連施設の訪問、インターンシップを通して、キャリア教育を推進する。	A		
		生徒主体の運営を支援し、「科学性」「社会性」「指導性」の育成を行う。	B		
		プロジェクト発表・意見発表に向けて、継続的に研究活動を支援する。	B		
上級学校への進学を支援する。	早期からの個別指導を充実させ、四年制大学等への進学を支援する。	A			
地域に開かれた農場を目指す。	様々な行事をとおして、地域や異校種間の交流（近隣市町村施設、特別支援学校、幼稚園等）を推進する。	A			

	施設設備を整備し、安全かつ適正に運用する。	生徒が安心して授業が受けられるように、農業施設の維持管理（更新・修繕）を行う。	B	力の向上をはかる。
		環境に配慮した実習を行う。環境負荷の軽減に配慮した圃場運営を行う。	A	
		農薬の管理を確実に行う。 （購入・保管・廃棄・保管庫の施錠・保管庫の鍵の管理・記録簿への記入）	A	
		備品や農機具の管理を確実に行う。（保管・整備・購入・廃棄）	B	
		消毒・施肥・剪定・収穫を適期に実施し、梨園・温室等を良好な状態に保つ。	A	
		有機 JAS 規格に適合するように葡萄園の管理を行う。	A	
		生産管理を適切に行う。	A	
職員研修の充実を図る。	積極的に研修を行い、指導力・技術の向上を目指す。	C		
園 芸	基本的な知識や技術の習得のために、魅力的な授業を実践する。	栽培作物を精選しプロジェクトの充実を図る。	A	A ・座学で知識を身に付けることにより、その栽培知識を活用する能力を培うことができた。結果、農業への関心も深まり、農業系大学への進学希望者も増加している。 ・資格取得では、ビジネス文書実務検定で1級取得者を出すことができた。また、ビジネス文書実務検定で多くの生徒が2級取得するなど成果があがっている。英語検定では、2年時に3級合格した生徒の中で、準2級を受検する生徒も出ている。さらなる上級資格の合格を図る。
		栽培をともし命の大切さを学び、基本的知識を習得し農業への関心を高める。	A	
	資格取得を推進する。	日本農業技術検定試験3級取得100%（卒業時）を目指す。	B	
		ビジネス実務検定3級取得100%（卒業時）を目指す。	A	
		漢字検定2級・実用英語技能検定3級以上取得（卒業時）を目指す。	A	
	専攻ごとに魅力ある授業を展開する。	多くの品種を導入することにより基礎的栽培技術を学び野菜栽培への興味・関心を高める。【露地野菜】	A	
		施設栽培により高度な技術を学び、今後の栽培学習の向上を図る。【施設野菜】	A	
環境に優しい果樹栽培を実践し、有機JASへの知識・技術を深める。 IoTやICT技術を活用し、管理作業軽減のための技術を学ぶ。【果樹】		A		
	社会人講師を活用し、最新の技術を習得し草花への関心を高める。 フラワーアレンジメント検定3級取得100%（卒業時）を目指す。【草花】	A		
造 園	基本的な知識や技術の習得のために、魅力的な授業を実践する。	設計を具体化する実習を通して作庭の喜びを感じ、環境緑化や造園土木への関心を高める。	B	B ・技能検定に向けた指導体制も充実し、3級の資格取得者は全体で約70%（2年44%・3年91%）、2級合格者が7名（3年）となり、学科の目標（2級5名以上・3級100%）としている数字に近づいている。 ・考える力を身に付けられるような授業展開の工夫。 ・学びの中での成功体験を増
		校内外の教材を積極的に実験実習指導に取り入れ、プロジェクト学習の充実を図る。	B	
		社会人講師やマイスター制度を積極的に活用し、基礎的な造園技術の向上を図る。	A	
	資格取得を推進する。	造園技能士3級の資格取得100%（卒業時）を目指す。	A	
		造園技能士2級取得へ向けた指導体制の確立を図る。（合格目標5名以上）	A	
		マイスター派遣事業による実技指導を受け、基礎から応用まで幅広い技術を身につける。	A	
	施設・教材の管理を適切に行う。	各圃場の整備や機械の点検・整備、道具や農具の安全管理に努める。	A	
樹木見本園の剪定等を定期的に行い、生きた教材として有効活用する。		A		
専攻ごとに魅力ある授業を展開する。	多種多様な造園材料の特性や性質を学び、美的かつ機能的な材料の選択、使用方法を身につける。（材料）	B		

		造園技術理論や施工・管理実習を通して、利用する人や目的を考えた園を造る。(施工)	B	やしていく。 ・学んだものを応用できるような力を付けさせたい。
		製図やCADの基本操作を習得し、人と自然が共生する環境を設計する。(計画)	B	
1 学年	高校生としての自覚および基本的な生活習慣の確立を図る。	学校生活のあらゆる場面を活用して、高校生としての自覚を促すとともに、挨拶・身だしなみ・清掃の指導を徹底する。	B	B ・基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻数を減らすとともに、規範意識の向上を図る必要がある。 ・リクルートのスタディサブリを導入しているが、十分に活用できていない。各教科からの課題配信に加え、生徒が主体的に取り組むことができるよう、働きかける必要がある。
		遅刻カードを活用して基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識を養成する。	B	
		家庭との連携および情報共有を図り、問題行動等の未然防止に努める。	A	
		個別面談を実施し、生徒理解に努める。	A	
		学年内・教科内での連絡を密に取って情報を共有し、生徒の指導に活かす。	A	
	自主的に学習に取り組む態度の育成および進路意識を高める。	タブレット端末や学習記録表を活用し、自己管理能力の育成を図る。	B	
		進路指導部と連携し、職業ガイダンスなどを通して進路情報の収集を図るとともに、キャリア意識を高揚し、将来に対する目標を持たせる。	B	
		自宅学習課題、小テスト等を工夫して家庭学習の習慣化を図る。	A	
	部活動、学校行事への積極的な参加を促し、生徒の向上心や達成感を促進する。	B		
	平常課外や長期休業中課外等を実施し、学力向上を図る。	A		
2 学年	規律ある生活習慣を定着させる。 規範意識を高め、自分のみならず他者を尊重する態度を育てる。	家庭との連携および情報共有を図り、問題行動等の未然防止に努める。	B	B ・問題行動の未然防止のためには、積極的に特別指導をしていく必要がある。 ・服装、頭髪の指導について継続して働きかける必要がある。 ・修学旅行を通して、生徒理解が深まった。 ・9月にスタディサブリの講演会を実施し、自ら学ぶ方法について学ぶことができた。自主的に取り組む生徒を増やすことが今後の課題。 ・卒業後進路に向けて、学年集会や進路ガイダンスを継続的に行う必要がある。
		個別面談を実施し、生徒理解に努めるとともに適切な指導援助を行う。	A	
		服装や頭髪等の身だしなみ指導を徹底し、あいさつを励行する。	B	
		修学旅行等の学校行事を通じて望ましい集団づくりに努める。	A	
		特別活動やホームルーム活動等を通して、豊かな人間性の育成に努める。	B	
	主体的に学習に取り組む態度を育て、着実な学力の向上を図る。	授業展開の工夫と家庭学習の習慣化を図り、日々の授業に積極的に参加する態度を育成することによって、進んで学力の向上に取り組む姿勢を持たせる。	B	
		スタディサブリを用いて、授業の復習から発展的な学習まで、自主的に学習に取り組む態度を育成する。	A	
		平常課外や長期休業中の課外等に積極的に参加させ、学力を向上させる。	B	
	常に進路への意識を持たせ、進路先を明確にさせる。 進路決定のための個々に応じた具体的支援を行う。	キャリアデザイン力を育成し、自分の適性と将来について考えさせ、進路実現を支援する。	B	
		スタディサポートや模擬試験を活用し、学力の把握と学習に対する意識の向上を図る。	A	
進路指導部と連携し、生徒の具体的な思考や行動を促す進路情報を発信する。 面談等で生活状況や学習状況を把握し、自己実現の支援を行う。		B		
基本的な生活習慣の確立と規範意識の定着を図る。 主体的な学習態度の育成	欠席・遅刻・早退等について、家庭との連絡を密にし、連携を図る。	A	・新カリキュラムを2年間実施して、課題もあり、検討を要する事項がある。 ・これまでは些細な人間関係のトラブルとして対応してい	
	個別面談を実施し、生徒理解や学習状況の把握に努めるとともに、適切な指導援助を行う。			
	社会性を意識させ、服装や頭髪等の身だしなみの指導を徹底し、あいさつを励行させる。	B		
	学校行事やホームルーム活動および部活動等を通して、豊かな人間性の育成に努める。	A		
	生徒が落ち着いて学習に集中できる環境作りに努める。	A		

3 学年	よび確実な学力の向上を図る。	予習・復習を励行し、授業を工夫して主体的に授業に取り組ませる。	B	B	たものが「いじめ」問題として発展することがあるので注意して対応する必要がある。 ・本校は進路選択や生徒指導の幅が広いので、それぞれへの理解や対応および協力が必要である。
		課題を工夫するなど、家庭学習の習慣化を図り、進んで学力の向上に取り組む姿勢を持たせる。	B		
		学年団および教科内での連絡を密にし、情報を共有することによって指導に活かす。	A		
	進路指導の充実および進路希望の実現を目指す。	各種ガイダンスを実施するなどキャリアデザイン力を育成し、自分の意志で進路を実現させる意識を持たせる。	A		
		スタディサポートや模擬試験を活用し、学習に対する意識を向上させる。	B		
		進路指導部と連携して組織的・計画的な指導を推進し、生徒の積極的思考や行動を引き出す。	A		
		平常課外や長期休業中における課外等に積極的に参加させ、学力を向上させる。	B		
		面談を通して生活状況と学習状況を把握し、自己実現のための支援を行う。	A		

※ 評価基準： A 十分達成できている。 B 達成できている。 C 概ね達成できている。 D 余り達成できていない。 E 達成できていない。